

釧路市教育委員会 令和3年第11回7月定例会会議録

- 1 日時：令和3年7月27日（火）13時30分から14時35分まで
- 2 会場：MOO 2階 教育委員会室
- 3 出席者
岡部義孝教育長
(教育委員)
山口隆委員、松尾千穂委員、種村俊仁委員、小出美貴子委員
(事務局)
大坪学校教育部長、津田生涯学習部長、大山教育指導参事、三富学校教育部次長、
早坂学校教育部次長、上野北陽高等学校長、北澤北陽高等学校事務長、工藤生涯学習部次長、
富田総括指導主事、中村動物園長、鈴木ふれあい主幹、
- 4 議事録署名人 山口委員、松尾委員
- 5 傍聴人数 0人
- 6 提出案件

【公開案件】

議案第41号 令和4年度釧路北陽高等学校教科用図書採択について

報告事項

- (1) 室内の換気とCO₂測定器製作講座について
- (2) 釧路北陽高等学校の単位制の概要について
- (3) 釧路北陽高等学校の見学旅行の取扱いについて
- (4) クラウドファンディング型ふるさと納税の結果について
- (5) 釧路市動物園の夜間開園について
- (6) 学校の現状について

7 会議内容

【公開案件】 報告事項

(2) 釧路北陽高等学校の単位制の概要について

(上野北陽高等学校長)

令和4年度釧路北陽高等学校教科用図書採択の議案説明の前に、関連があることから、来年度の1年生から移行される、単位制の概要について先に報告する。

1「学校教育目標」、2「育成する生徒像」は記載のとおりであり、3「教育課程編成の方針」の1つ目は、本校のこれまでの取り組みや特色を活かし、生徒一人一人に視点を当てたきめ細やかな学習指導と、地域の特性や連携を重視するなど、社会に開かれたものであること。2つ目は、自己実現に向けて、生徒が自己の能力や進路希望に応じて履修できるものであること。3つ目は、単位制の趣旨や選択履修の趣旨を生かしたものであることとし、生徒の興味・関心、進路希望に対応した選択科目の設定や、学校外における学修は、英検等を考えているが単位認定を実施する。

4「特色ある教育活動」は、「豊かな心の醸成」「確かな学力」「系統的なキャリア教育」を推進し、進路希望を実現させるため、「国際的な視野に立ち、自他を信じ、地域や社会に貢献できる人間の育成」「個に応じた学習指導の実施による基礎・基本の確実な定着」「望ましい職業観・勤労観を育成するための地域の産業や企業等の人材の活用」を柱とした教育活動を進めて参りたいと考えている。

具体的には、台湾への見学旅行などの体験的な活動を通じて、異文化を理解し尊重するとともに、異なる文化を持つ人々と共生していく資質や能力の育成を目指し、英語・数学などでは進路希望による少人数授業、商業系科目ではT・T授業など、個に応じた指導を展開したと考えている。

また、インターンシップやボランティア活動などの体験的な学習、地域産業や企業の人材を活用した講話など、キャリア教育の充実を図っていく。

5「令和4年度入学者教育課程」は、単位制の導入にあたり、現在の週30単位から31単位とし、只今説明した「教育課程編成の方針」及び「特色ある教育活動」に沿って、より多様な進路希望に対応した教育課程としたものである。なお、令和4年度の1年次の教育課程については変更ないが、2年次と3年次については、生徒の進路希望等に応じて変更することもある。

【公開案件】

議案第41号 令和4年度釧路北陽高等学校教科用図書の採択について

(上野北陽高等学校長)

只今説明した単位制への移行、来年度からの新学習指導要領の実施に伴い、令和4年度の入学生の教科書はすべて新規のものとなる。

新学習指導要領では、社会の変化に対応し、生き抜くために必要な資質・能力を備えた子どもたちを育むため、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「学びに向かう力、人間性など」の3つの柱からなる資質・能力の育成、向上を目指している。

来年度1年次の教科書は、物事を広く深く見る力と考える力を養うことや、生徒の学習意欲を高め

る工夫など、新学習指導要領の目的を達成するために活用しやすい教科書であることから、採用したいと考えている。

2年生、3年生の教科書は、令和3年度と同じものである。

◎この議案及び報告について、各委員から次のとおり発言あり。

(岡部教育長)

北陽高等学校では現在、フィールド制というスタイルを取っているが、令和4年度の入学者から釧路市内では釧路江南高等学校に次いで単位制ということになる。

(山口委員)

単位制は1年生全員が同じ授業を履修し、2年生から自分の進路に合わせた科目を選択していくということであり、1年生の1年間で自分の将来に明確な目標を持つ必要があると理解した。そのために生徒の進路希望に合わせて、どのような科目を履修する必要があるのかというガイダンス機能の充実が極めて重要と考えるが、対応はされているか。

(上野北陽高等学校長)

本校では平成20年度からフィールド制を導入しており、多様な進路選択に対応するという点に関しては、10年以上の指導経験と実績があると考えている。

フィールド制では、1年生でフィールドの選択と選択科目を決めるため、担任と生徒、保護者との三者面談などの機会を使い、十分に説明を行っている。

1度決めるとなかなか変更が利かないフィールド制より、単位制のほうが柔軟に対応しやすいという点では、これまでのノウハウに更にプラスしてきめ細かい指導に対応できると考えている。

(松尾委員)

高校を志望する際、単位制に変更になることへの子どもや保護者の不安の解消について、中学校への情報提供をしっかりと行ってほしい。

(上野北陽高等学校長)

夏休み明けになるが、学校説明会や本校の教員が訪問して中学3年生に話しをする機会もあるため、フィールド制との違いなどの説明し、安心して入学いただけるよう努めていきたい。

(岡部教育長)

釧路江南高等学校が単位制に移行しているため、中学校の進路の先生にとっては分かりやすい。

(上野北陽高等学校長)

本校は進路多様型の単位制であり、これまでのフィールド制を無駄にすることなく、更に充実したものにしていきたいと考えている。

(種村委員)

選択科目が細かく設定されているが。

(上野北陽高等学校長)

科目については、文科省が提示しているものを踏まえて設定しているが、通常の普通科であればそれほど多くの選択科目を作れないが、教員に限りがある中でも全ての科目が開講できると考えている。

(小出委員)

幅広いカリキュラムが良いと思うが、これから入学してくる中学生に対して、どういう選択肢があるかということをしつかりと伝える必要がある。また、高校に入学するまでに将来の進路を決めている生徒は多くないので、中学校でのキャリア教育が大事になると感じた。

(上野北陽高等学校長)

今年度入学者の保護者を対象とした、フィールド制の選択科目についての保護者説明会を先日実施したが、次年度の科目を選択する期間が4か月程度しかないため、中学校の時に考えていたことが大きく影響すると考えている。今後、中学生に対しては、科目選択が多くあるので、自分で何をやりたいか目標を持って入学して欲しいということを訴えていきたい。

(大山教育指導参事)

中学校の教員も生徒に対して単位制の説明が必要となるので、高校側からのPRをお願いしたい。

(山口委員)

別の視点で入学者の確保について、先日訪問した際に感じたことだが、生徒用トイレについて未だに和式がほとんどで洋式が少ない。道立高校は予算が付いて今年度中に洋式に切り替えていく中で、北陽高等学校はまだ和式なので行きたくないというマイナスの要素になっては困る。また、熱中症対策で水分を採るよう指導していても、和式のトイレに行くのを嫌がって水分を採りたがらないという話も聞いている。

予算が必要な話で教育委員会だけでは解決できないが、トイレの洋式化についても検討の必要があると思う。

(岡部教育長)

学校のトイレについては、小中学校においても未だに洋式化されていないため、小中学校からの要望も寄せられている。昨年度策定した釧路市立学校施設長寿命化計画の中で改修を考えていく時に、時間はかかるかも知れないが、トイレの問題も合わせて整備をして行かざるを得ないという状況をご理解いただきたい。

【公開案件】 報告事項

(3) 釧路北陽高等学校の見学旅行の取扱いについて

(北澤北陽高等学校事務長)

5月の定例教育委員会において、2年生の台湾への見学旅行については、台湾の入国規制が解除される見通しが立たないことから、国内での旅行に変更することで承認いただいていたが、この度、行先を沖縄県とし、11月3日から6日までの3泊4日の日程で計画を進めることとした。

今後計画を進めていく中で、感染状況によっては、更なる変更を検討することも考えられるが、感染状況を慎重に見極めながら、生徒の安全を最優先の上、行程を組んで参りたいと考えている。

◎この報告について、各委員からの発言なし。

【公開案件】 報告事項

(1) 室内の換気とCO₂測定器製作講座について

(富田総括指導主事)

釧路高等工業専門学校との連携により8月30日に開催する。

現在は夏なので窓を開けて、新型コロナ対策の予算等で購入した機器も使用して過ごしているが、冬はなかなか窓を開けられないため、換気について学習する機会とセットで室内CO₂簡易測定器の製作を行うものである。

測定器については、プログラムのインストール等を行うため、高専に各学校の先生方に来ていただいて製作してもらい、学校に持ち帰って活用していただく講座となっている。なお、密を避けるために、2回に分けて講座を行う。

◎この報告について、各委員から発言なし。

【公開案件】 報告事項

(4) クラウドファンディング型ふるさと納税の結果について

(中村動物園長)

資料はすべて7月15日時点の数値となっているが、最新の速報値を報告する。4月28日から7月26日までの90日間で寄附を募集し、寄附金額は8,714,000円、支援人数は442人となった。なお、インターネット以外での申し込み分が反映されると、変動する見込みがある。

寄附された方の居住地の内訳は、7月25日時点で、市内の方が36人、道内の方が109人、道外の方が268人となり、その内の22人が複数回の寄附をくださった。

寄せられた応援メッセージを見ると、「コロナが落ち着いたらコハクくんに会いに動物園にお邪魔したいです。」など、コハクは勿論のこと、釧路市動物園に対する高い関心を示すコメントも多数寄せられ、全国的な知名度向上に繋がったのではないかと考えている。

今後は、寄附者への感謝を表す意と、寄附金の使い道を明確にするため、8月中旬から本格的に始まる工事の様子を写真や動画などで記録し、動物園ホームページやSNSで公開していく予定である。

◎この報告について、各委員から発言なし。

【公開案件】 報告事項

(5) 釧路市動物園の夜間開園について

(中村動物園長)

従来は「夜の動物園まつり」として様々なイベント等を行っていたが、コロナ禍の現状を踏まえ、新しい生活様式に対応した内容に見直し、「夜間開園」として、7月31日、8月7日、8月14日

の3週連続土曜日に開催する。開園時間を夜8時30分まで延長し、アイスクャンドルやイルミネーションで園内を彩り、普段見ることのできない夜の動物園を来場者に楽しんでいただく。

◎この報告について、各委員から次のとおり発言なし。

【公開案件】報告事項

(6) 学校の現状について

(大山教育指導参事)

1学期は、コロナによる緊急事態宣言が出され、学校行事の変更や、職員室でのクラスター発生という緊急事態への対応を迫られた。

引き続き、2学期も感染拡大が予想され、緊張感の中での学校経営が強いられることも含めて、心の体も休ませるようお願いした。

1学期中に教育長や平木アドバイザーの学校訪問、私たちの1次訪問が終了した。教育課程は、特別支援教育と総合的な学習の時間について、未整備の学校には夏休み中に整備するよう指導した。

一番の課題は「授業改善」であり、1次訪問では中学校のすべての教員の授業を参観したが、授業力のある教員はいるものの、一方的な授業になりがちな教員も多く見受けられた。

「授業改善」を確実に進める必要があることから、校長会議でも言い続けることとしている。

校長先生方には、授業改善を進めるに当たり3点お願いしている。1点目は、「これからが最後の正念場です。肝を据えてください」ということ。2点目は、「これは単に教員に指導することで終わることではありません。重要な学校経営であると捉えてください」ということ。3点目は、『管理職の役割は「校内の世論をどのように喚起できるか」にあり、校内における授業改善に向けた前向きな気運の醸成は、校長先生の経営手腕にかかっている。夏休み中に、教頭先生と「誰に」「どのように」アプローチするのか作戦を練ってください』とお願いした。

8月から9月に期限を決めて「釧路市授業スタンダード」の授業に臨む大前提について確実に指導いただくようお願いした。落ち着いて学習に向かう環境づくりの大前提は教室の整理整頓であり、黒板の使い方についてもお願いした。

最後に、中学校で多い「しゃべりすぎる授業」と「プリント学習」についてお話した。

特にプリント学習については何年も前から保護者からの指摘があり改善をお願いしてきましたが、まだ改善されていない学校があることが大変残念であると伝えている。

1次訪問でこのことに関わって、中学校の研修担当の先生との協議で出された話題をまとめて伝えました。①自分の授業を見て自分で授業の課題を見つけてほしい。②中学校は教科にこだわらず生徒の気持ちになって授業を見れば課題がわかるはず。③授業公開には動画という方法も有効かもしれない。等の意見があった。

このように授業改善の必要性を感じている教員も多くおり、このような先生の声を学校経営に生かしてほしいと思う。

夏休みのタブレット端末持ち帰りについて、6月から各学校で家庭への持ち帰りを試行し、家庭で

オンライン学習の環境が整っているのかを確認した。その中で、様々な課題が明らかになったことから、対応をまとめて2学期を迎えるために夏休み期間の持ち帰りは見送り、2学期以降に課題を整理して指導の徹底を図りたいと考えている。

最後にキャリアシンポジウムのお礼と平木アドバイザーの学校訪問についてお願いし、2学期からタブレット端末による不登校児童生徒への学習保障について試行を始める旨の連絡を行った。

◎この報告について、各委員から次のとおり発言あり。

(山口委員)

学校訪問について、管理職も平木先生の指導を聞き、その後の指導に活かしてもらうことは、必要なことで大切なことだと思う。管理職の先生が一人一人の先生にどう寄り添って授業改善を促していくかが肝になる。

タブレットについては、全国的にも課題が明らかになってきており、ネットモラルの対応も合わせて児童生徒への対応、先生方の確認、保護者への対応について継続的に実施していく問題だと思うが、児童生徒だけが情報を共有していて、先生や保護者が知らないような事案があると、教育委員会も認識出来ずに的確な課題解決ができないと思うので、連絡を密にした対応をお願いしたい。

(大山教育指導参事)

平木先生の訪問については、1回目の時に校長先生を交えての指導を行い、的確な指導であるとの評価を頂いている。タブレットについて、最近課題が見えるようになった背景には保護者、学校、児童生徒からの情報が入ってくるようになり、対処できるようになっている。

(松尾委員)

先生によって能力の差があることは理解するが、しゃべりすぎる先生がいるということは、教えるというより話をしている感じだと思うが、こうした授業を受けると中1ギャップの要因にならな心配である。管理職がしっかり授業を見て改善して、学力の向上につなげてほしい。

(大山教育指導参事)

中学校の全ての先生の授業参観を管理職と一緒にいき、先生個々の状況も把握できたので、2回目の訪問の際に振り返りを行いながら指導を徹底していきたい。

(小出委員)

授業スタンダードの教師の表情・言葉遣いについて、中学校の先生の言葉のきつさに驚いたことがあり、どうにかならないのかと思うことがあった。今回の指導の中で改善する項目に入っているが、成果はあるのか。

(富田総括指導主事)

教えたくて仕方がないという気持ちが出てしまうが、最近の中学校の先生は柔らかい感じにはなっていない。

(小出委員)

授業中ではなく普段の言葉使いが気になる先生がいるが、指導はするのか。

(富田総括指導主事)

授業以外の部分についても各学校にお願いしているが、子どもの人権や受け止め方もあるので今後も管理職を通じて指導していきたい。

(小出委員)

タブレットの持ち帰りについて、4月、5月頃に保護者と話をした時に、持って帰って来た時にどうすればよいかとても戸惑っている様子が伝わってきた。当初保護者への情報が少なかったと思うが、実際に持ち帰りを試行して、保護者からの情報も上がってきているということか。

(富田総括指導主事)

確かに保護者への周知が足りない学校もあり、参観日などの際にタブレットをどのように使っているかを見てもらった上で、持ち帰ることができれば保護者にとっても分かりやすいと思う。

学校で配布しているプリント等にもきめ細かく記載しているので、教育委員会も連携して情報提供を進めていきたい。

(大山教育指導参事)

子どもの方が技術的に優れているので、自宅でのタブレットの使い方を保護者が見て、学校へ報告していただいた事例も多くあった。

(小出委員)

親がそのような使い方を見つけたことは安心したが、子どもが何をしているか保護者が知らないことが一番怖い。

(富田総括指導主事)

インターネットサイトの閲覧については、フィルターをかけているが完全ではない状況である。今後の校長会や教頭会の中で、これまでの報告事項を含め、改めて使い方を周知していきたい。

(山口委員)

先日、北陽高等学校の授業を見学した際、子どもたちの主体的な学びをどのように保障するかを考え、ほとんどの先生がその方向へ変わろうとしている状況を見る事ができた。

(種村委員)

中学校は新学習指導要領になり生徒主体の授業がポイントになるが、教科書が変わって量が多くなり、どちらを優先させていくのか。

(富田総括指導主事)

子どもの立場に立った指導を行うよう、教え方については先生方に努力していただくよう説明している。

(大山教育指導参事)

外国語教育アドバイザーから、教科書を教えるのではなく、教科書で教えるという言葉があり、教材研究をしっかり行い、何をさせるのかを理解することが重要になってくる。